

世界湿地ネットワーク World Wetland Network

年次報告書



「WWN は、ラムサール条約の実施における湿地 NGO の参画という目的を促進するはずです。条約事務局はこの目的を支持します。私たちは WWN との協働を楽しみにしており、2012 年の次回締約国会議での彼らのサポート、そして湿地の保全と賢明な利用における最良の実践例を表彰するという新しい世界湿地賞の成果に期待しています。」

ラムサール条約事務局 2009 年 11 月

2008 年 11 月 – 2009 年 10 月

目 次

はじめに

1. WWN とは
2. 設立準備
3. 財務
4. コミュニケーション
 - 4.1 スカイプによる委員会の会議
 - 4.2 ウェブサイト
 - 4.3 リーフレット
 - 4.4 メーリングリスト(ML)
 - 4.5 ラムサール条約事務局及び外部団体との連携
5. プロジェクト開発
 - 5.1 会員募集
 - 5.2 湿地の健康チェック
 - 5.3 世界湿地賞
6. キャンペーン
 - 6.1 CBD への参画
 - 6.2 韓国
7. 地域での作業
8. 将来の計画
 - 8.1 新規会員の勧誘
 - 8.2 他の国際団体パートナーとの連携強化
 - 8.3 ウェブサイト及びコンテンツ(事例研究を含む).
 - 8.4 発展計画
9. 持続可能性
10. 付属文書

はじめに



韓国でのラムサール条約第 10 回締約国会議（COP10）の興奮と賑わいからずいぶん時を経たように思えます。その会議で NGO の代表者たちは新たなネットワークを始動させようとしていました。私たちの中には以前 COP（締約国会議）に出席したことがあり、会議の仕組みを知っていた者もいましたが、殆どの者にとってそれは新たな経験でした。しかし、全員がラムサール条約のプロセスに NGO たちの意見をもっと反映させるべきだという共通の思いを抱いていたのです。

COP10 では地域の NGO 専用の部屋が用意されました。私たちは準備が整うとすぐに毎朝ミーティングを開いて、その日に取り組むべき主な活動に備えました。こうすることにより、可能な限り多くの NGO を巻き込むことができました。その後、中核グループがさらに時間をかけて、取り組みに必要な文書の作成や詳細な作業を行いました。

COP10 終了までに世界湿地ネットワーク（World Wetland Network: WWN）の活動計画と活動付託事項が策定され、11 名から成る委員会も結成されました。WWN は、ここから始まった一年間で、この作業計画の殆どを達成し、メンバーの大半と毎月連絡を保って、国際湿地賞のための助成金も獲得しました。

WWN にとっての新たな段階がスタートしました。ウェブサイトがきちんと整い、委員会の対面会議が開催され、新規ならびに既存の会員が優良な湿地管理を積極的に推進する際の重点的サポートが行われるなど、わくわくするような展開となるはずですが。来る年も実りの多い一年となり、WWN の会員数と実効力がどちらも伸びてゆくことを期待しています。

Chris Rostron
世界湿地ネットワーク 議長

1. WWN とは

ラムサール条約 COP10 会期中の 2008 年 11 月 4 日に、世界湿地ネットワーク (World Wetland Network: WWN) は活動付託事項 (Terms of Reference) を採択しました。本会議に先立って開催された湿地に関する世界 NGO 会議と NGO 宣言の作成を終えて、私たちはそれまでの協議を受けて世界の湿地 NGO を組織化することの必要性を実感するに至りました。



過去に何度も COP に出席したことのある仲間たちが、毎回、小さな NGO に対しても会議への積極的参加が呼びかけられてはいたものの、組織や準備が十分でない NGO は自分たちのメッセージを伝えるという極めて重要な役割を果たせないできた実情を説明しました。湿地保全、教育及びコミュニティ・プロジェクトが、このような小さな草の根 NGO によって数え切れないほど実施されています。私たちは、湿地に関する最も重要な国際条約であるラムサール条約にこれらのグループの意見を反映させ、影響を与えたいと考えたのです。

それ以降、WWN の委員会は、スカイプや E メールなどのコストの少ない通信手段を用いて毎月会議を開き、会員数を伸ばすとともに、全ての会員にメーリングリスト (ML) を通じてコミュニケーションを図るよう呼びかけてきました。各委員は、早朝、深夜、時にはプライベートな時間を割いて会議に参加し、これらの活動を継続するために努力してきました。各地の湿地センターをつなぐ国際湿地リンク (WLI: 訳注: 「ウェリ」と読む) というプロジェクトを通じて WWN の議長の仕事に便宜を提供してくれた英国水鳥・湿地トラスト (WWT) の厚意に感謝いたします。委員会の構成は下記の通りです。

代表地域	代表者	所属
次回ラムサール会議 開催地(COP11, 2011)	Mr. Peter Lengyel	UNESCO プロナトゥーラ、ルーマニア
アジア	Mr. Minoru Kashiwagi	ラムサール・ネットワーク日本
	Mr. Tsuji Atsuo	JAWAN、日本
新熱帯区	Ms. Melissa Marín	FUNGAP、コスタリカ
	Mr. Esteban Biamonte	Union de Ornitologico、コスタリカ
北米	Ms. Becky Abel	ウィスコンシン湿地協会、米国
アフリカ	Mr. Mbye Baboucarr	ステイ・グリーン財団、ガンビア
オセアニア	Ms Cassie Price	ウェットランド・ケア、オーストラリア
欧州	Mr. Chris Rostron	水鳥・湿地トラスト、英国

スペイン生物多様性財団に申請した私たちの野心的な企画が承認されました。これにより、湿地の管理における最良の実践例を表彰し、劣化した湿地の事例に注意を喚起するための世界湿地賞を創設することができます。本報告書は、湿地に深く関わる人々のアイデアから韓国で誕生した WWN が、機能する国際組織として重要な新事業へ乗り出そうとしている現在までの歩みの記録です。一年が経ち、私たちにとってはこれまで達成した事柄は喜びであり、待ち受ける挑戦にわくわくしています。

2. 設立準備

最初の会議では、過去のラムサール COP に出席していた他の NGO 代表者たちのアドバイスを参考に、WWN 設立のためのいくつかの基本文書を作成しました。基本文書には、委員会のメンバー、WWN の趣旨と目的、及び短・中・長期的目標を掲げた作業計画を記載した活動付託事項、そして事務局を担当する Esteban Biamonte が維持管理する会員名簿が含まれます。

文書の詳細については、本報告書の付属文書、または WWN のウェブサイトをご覧ください。

「世界の至るところで、政府が環境に配慮せずに有害な湿地管理政策を実施した結果、湿地が持続不可能に利用され、貧しい人々が社会的、文化的、経済的な影響を受けています。湿地の賢明な利用は、もはや環境保護運動家のみに関心事ではなく、湿地の最終利用者である人類全体にとっての問題の焦点です。」

Baboucarr Mbye
WWN 委員会メンバー、アフリカ

3. 財務

資金がないため報告事項は多くありません。支出の主たる項目は委員会のメンバーが、会議の参加及びその準備に費やした時間でしょう。WWT は自らの職員でもある WWN 議長が会議やウェブサイトの管理に割く時間を、そのまま WWN に寄付することに同意してくれました。また、会員の一人が本事業に約 £200 を寄付してくれました。それ以外の費用を下記に示します。

項目	日付	支出 (£)	収入 (£)
スカイプ		£25.00	
ロゴのデザイン		£230.00	
労働時間の現物寄付 (WWT)		£3,000.00	£3,000.00
労働時間の現物寄付 (委員会メンバー)			
ウェブサイト用ドメイン名購入		£100.00	
翻訳料		£150.00	
寄付金			£190.00
	合計	£3,505.00	£3,190.00
	残高	-£315.00	

4. コミュニケーション

4.1 スカイプによる委員会の会議

低コストで連絡を保つ手段として、月に一度スカイプを利用して一度に最大8名の委員が約一時間にわたる会議を行っています。委員たちは世界中に分散しているため、それぞれの現地時間でほぼ深夜の会議に参加する人や、朝6時にログオンする人もいます。議事録が作成され、要約版がWWNのウェブサイト一般公開されています。私たちは、会員ならびにそれ以外の人々に対してもオープンでアクセスしやすいシステムを維持するよう努めています。

4.2 ウェブサイト

現在、WWNのウェブサイトはWWTのWLIのページ内にあります。このためWWNのコスト負担なしに、基本的な情報は議長が掲載できます。ウェブサイトはラムサール条約の公式言語（英語、フランス語、スペイン語）で作られ、仲間たちが翻訳したその他の言語の資料もあります。会員が使用できるように、www.worldwetnet.orgのドメイン名を購入しました。



4.3 リーフレット

会員の一人からの寛大な寄付のおかげで、WWNのロゴデザインをデザイナーに発注して作ることができました。二つの交差する波をイメージしたロゴは、文化や言語の違いを超えて視覚的に理解しやすいものとなっています。

リーフレットは委員会が協働で作成し、仲間たちが翻訳したものです。全ての会員がPDF版をダウンロードして利用でき、地域用にアレンジすることも可能です。

4.4 メールリングリスト (ML)

欧州代表のPeter LengyelがMLを開設し管理しています。現在200名以上がこのMLに参加しています。誰でも次のリンクからアクセスして参加することができます。

http://tech.groups.yahoo.com/group/World_Wetland_Network

参加者が自分たちのプロジェクトに関する近況報告を行ったり、情報を通知したり、国際的に重要な湿地の問題に対して関心を喚起するなど、日常的にメッセージが行き交っています。

4.5 ラムサール条約事務局及び外部団体との連携

WWN議長は定期的にラムサール条約事務局と連絡を取っており、そこにはSTRP（科学技術検討委員会）メンバーも含まれています。湿地の健康チェックの提案を行う際も、議長とラムサール条約事務局次長との間で協議が行われました。

5. プロジェクトの開発

「世界湿地ネットワークは、世界中の NGO が緊密に連絡を保ち、湿地の重大な問題に関する支援ネットワークを形成できるほかでは得られない場です。会員となることで私たちは大小の NGO と繋がることができます。

国々よ、湿地の国際舞台で遅れを取るな
— 生易しいことではないけれど!」

Cassie Price

WWN 委員会メンバー、オセアニア代表

5.1 会員募集

会員名簿は事務局担当の Esteban Biamonte が管理しており、ML の参加者を反映しています。



WWN アフリカ代表の Baboucarr Mbye が会員登録用の様式を作成しました。最近、この申込書にプロジェクトや活動の詳細を記入して登録するよう会員

に呼びかけました。まだ登録が十分に進んでいませんが、これは私たちの次の企画の予備情報となるものです。世界湿地賞の企画では、湿地への投票を行う際に会員登録が必要です。

5.2 湿地の健康チェック

委員会の活発なメンバーたちは、WWN の湿地を評価する国際プロジェクトとして、まず「湿地の健康チェック」という企画を立案しました。しかし、委員会で作業の範囲を検討した結果、まだ WWN はそのようなプロジェクトを実施して成功に導くことのできる段階にはなく、より多くの作業をネットワークの強化に注ぎ込むことが必要であることが判明しました。また、「湿地の健康チェック」の目標の多くがバードライフ・インターナショナルの IBA（重要鳥類生息地）と重なっていることもわかりました。これらの理由で、この企画は、将来のプロジェクトの基盤を形成する可能性はあるとしながらも、進行を中断しました。

5.3 世界湿地賞

会員数を拡大し、キャンペーン組織としての技能を向上させ、独立したウェブサイトなどのリソースを提供することができるようなプロジェクトを模索しながら、私たちにとって必要だったのは誰でも理解できる効果的な挑戦でした。WWN の存在理由の少なくとも一部は、国際的な湿地保全の問題に関して独自の立場から論評を発表することで、「湿地の賢明な利用」の実現を支え、軽視されたり破壊されたりしている国際的に重要な湿地の事例に注目を集めることです。

2009年9月、Melissa Marin と Chris Rostron は、柏木実と Esteban Biamonte をはじめとする委員たちのアドバイスを受け、世界湿地賞の企画をスペインの生物多様性財団に申請しました。この度、この企画への支援内定の知らせを受けました。この企画は地域ネットワークと一元的に管理される専用のウェブサイトを通じて運営されることとなります。私たちは地域の NGO に対して呼びかけ、彼ら自身の管理でも、他の民間団体、あるいは自治体や国の政府の管理でも、国際的 / 全国的に重要な湿地の事例を提



供してもらいます。また、住民参画、持続可能な / 持続不可能な農業、生息地管理、野生生物の管理などの部門を設け、それらについて良好な事例と否定的な事例を募集します。

WWN の委員会が受賞湿地を決定し、それらを 2010 年 10 月に日本で開催される CBD COP10 において発表します。湿地表彰はその後、2012 年のラムサール条約 COP11 の際の国際 NGO 湿地会議にあわせて再度実施されます。

6. キャンペーン

6.1 CBD への参画

日本のアジア代表は CBD Alliance と連携し、2010 年の CBD COP10 への市民参画を支援しています。日本を活動拠点とする柏木実は CBD Alliance の協議に参加しており、CBD COP10 への湿地 NGO の参画を支援する役割を果たすでしょう。

6.2 韓国

ラムサール条約 COP10 以降、そしてそこで韓国政府が湿地保全の確約をして以降も、いくつかの大規模な湿地破壊が計画されているだけでなく、実際に進行中であることが明らかになってきました。韓国の WWN の会員たちは、四大河川「再生」事業に対する反対運動を活発に展開しています。他の国の WWN 会員たちも ML を通じて支持を呼びかけ、議長は WWN のウェブサイトにも情報を掲載するなどしてこれを支援しています。

7. 地域での作業

現在、助成金に関する最終決定を待っている段階であり、地域での作業は限られてはいますが、特にアフリカでは、地域代表の Baboucar Mbye が WWN の役割を積極的に広報しています。世界湿地賞のプロジェクトに対する助成金が確定すれば、さらに広報・普及を図っていきたいと考えています。

8. 将来の計画

WWN の作業計画の中には、取り組みが必要な分野がまだ残っています。次の分野に力を入れることが肝要です。

8.1 新規会員の勧誘

WWN は昨年一年間をその取り組みの企画や策定に費やしてきたため、新たなパートナーや外部からの関心を惹きつけるような「具体的な」プロジェクトはほとんど実施できませんでした。それにも関わらず ML の参加人数は 220 名ほどに増え、関心をもった人々からの登録申込書が送られて来ています。世界湿地賞の企画によって、自分たちの地域及び国の湿地に興味のある人々が多数入会してくれることと期待しています。



8.2 他の国際団体パートナーとの連携強化

ラムサール条約事務局、IUCN、国際湿地保全連合ならびにバードライフとの接触はありますが、これらの関係を正式なものとし、さらに定期的に連絡を保ちたいと考えています。来年にむけてこの点を進めていきます。

8.3 ウェブサイト及びコンテンツ(事例研究を含む)

ウェブサイトは会員に役立つような事例研究、地域のニュースやその他の資料を掲載できるよう構成されています。世界湿地賞のためのページが加われば、地域からより多くの情報を集めることができ、より充実したウェブサイトになってゆくでしょう。委員会の地域代表たちには、自ら資料をアップロードするためのアクセス権限が与えられます。

8.4 発展計画

作業計画は一年目の目的にかなうものであり、私たちはラムサール条約 COP10 で特定された優先事項を前進させることができました。2010年には対面会議を計画しています。これにより、私たちは発展計画にさらに深く取り組んでいくことができるでしょう。

9. 持続可能性

WWN の委員会はスカイプとインターネットを使っており、対面会議は、韓国のチャンウォンでの最初の会議以来行っていません。委員会のメンバー7名が会議のために英国に集まった場合の炭素コストは、CO2 換算で 17 トンに匹敵します。委員会は、非常に環境効果の高い方法で国際的なプロジェクトを発展させようとしています。私たちは WWN の環境上の使命を反映させるべく、活動による環境コストを最小限に抑えたいと考えています。

10. 付属文書

10.1 活動付託事項

NGO 世界湿地ネットワーク (WWN)

2008年11月4日韓国昌原 (チャンウォン)

目標：

湿地の保全および賢明な利用に関する NGO 間のコミュニケーションのための国際的なツールを発展させる。

目的：

- 毎回のラムサール COP に先駆けて、NGO による声明および決議案の準備を促進・調整する。
- 湿地の保全および賢明な利用の最良の実践例についての知識を共有するための国際的なプラットフォームをつくる。
- 地域および世界規模で湿地の保全上のギャップを特定するための技術を促進する。
- 湿地の賢明な利用に関する具体的な問題に取り組む作業部会を設置する。

調整グループの構成：

代表地域	代表者	所属
湿地に関する世界 NGO 会議 次期開催地(COP11, 2011)	Mr. Peter Lengyel	UNESCO プロナチュウラ、ルーマニア
アジア	Mr. Ma Yong-un	KFEM、韓国
	Mr. Tsuji Atsuo	JAWAN、日本
新熱帯区	Ms. Melissa Marín	FUNGAP、コスタリカ
北米	Ms. Becky Abel	ウィスコンシン湿地協会、米国
アフリカ	Mr. Mbye Baboucarr	ステイ・グリーン財団、ガンビア
オセアニア	Ms. Cassie Price Ms. Christine Prietto	オーストラリア
欧州	Mr. Chris Rostron	WWT (WLI 担当)、英国

議長：Chris Rostron (WLI)

副議長：Peter Lengyel (UNESCO プロナトウーラ)

事務局：Melissa Marín (FUNGAP), Esteban Biamonte (UOCR)

テクニカルアドバイザー：

W. Chad Futrell. KFEM 顧問、米国。

Kashiwagi Minoru. JAWAN、日本。

2008年11月4日ラムサール COP10 昌原

10.2 2008-2012 年 WWN 行動計画

2008-2012 年 WWN 行動計画

1. 基盤整備

目的	作業	担当	期間
1.1 ラムサール条約各機関からの支援の獲得	ラムサール条約のウェブサイト、フォーラムや主要関係機関など現存するリソースの中から地域の NGO のために利用できるものを探す。ラムサール条約のウェブサイトへのリンク。	WWN / 議長	短期
1.2 特定の湿地や問題に関するロビー活動・キャンペーン	ウェブサイトやネットワークを利用し、開発の脅威にさらされている湿地のための意見書や請願書への署名を集める。	WWN	中 ・長期
1.3 現存のネットワークを使った支援の提供	ネットワークの最良の事例 (JAWAN, KFEM など) を探し、全国規模のネットワークを WWN に取り込む方法を検討。	WWN	短期
1.4 地域拠点やネットワークの確立	域内の活動に関する情報収集や半年毎の報告書提供などを行う地域内・地域間連携のための地域委員会を設置。	地域代表	中期
1.5 情報管理	ウェブサイトを良好に保つよう管理状況を監督。アップロードを管理するための地域リンクを確立。	議長、地域代表、事務局	中期
1.6 コミュニケーションの継続	電話・テレビ会議、スカイプその他の手段を用いた委員会の会議を年 2 回開催。	議長	短期

2. ウェブ上のリソース

目的	作業	担当	期間
2.1 コンテンツ	NGO による湿地の管理・再生の成功例、その他の最良の実践例を盛り込む。	WWN	中期
2.2 ウェブサイトのホスト探し	既に開設されている湿地に関する世界 NGO 会議のウェブサイトは、こうしたサイトの有用性を広げるよい手始めになるだろう。掲示板にメッセージ、写真、その他のリソースをアップロードするためのツールなど。	WWN	短期
	現在、世界 NGO 会議のサイトは KFEM のウェブサイト内にある。直近の COP 開催地の NGO がウェブサイトホストし、COP 終了後は次の開催地の NGO が引き継ぐ。	KFEM	短期
2.3 リンク	条約のウェブサイトへの包括的なリンクが必要。条約のサイトは写真や文書を掲載するためのフォーラムを運営している。	WWN	短期
2.4 WWN ウェブサイトの開設	ホストページの容量を超えた時点で独自のウェブサイトを開設。Wetland Wiki のページなどを利用。（アップロードや編集を行ったり、潜在的意見をくみ上げる上で極めて柔軟なサイト。）掲示板の開設（短期）。	WWN	長期

3. 発展

目的	作業	担当	期間
3.1 WWN 会員数の増加	新規会員の勧誘。個々の NGO や国別コーディネーターを募り、自国に現存する NGO やネットワークを見つけ、それらの連携を強化。	議長、地域代表	中期
3.2 発展計画	次回 COP 準備のための発展計画が必要。	WWN	中期
3.3 助言及び共同作業	組織の受け入れまたは指導。国際団体パートナー及びラムサール条約事務局との連携。特に IUCN からの支援。国際団体パートナーとの関係緊密化。	WWN	短期
3.4 資金面の支援	資金調達、組織の受け入れ及び能力養成。	WWN	中期

4. コミュニケーション

目的	作業	担当	期間
3.5 定期的な直接のコミュニケーション	希望する会員が参加できる ML（ウェブ上で運営？）。	事務局	短期
	6 か月毎のニュースレター。	議長	短期
3.6 地域の話題・問題に関するコミュニケーション	地球規模ではない地域規模の話題・問題のための ML が必要。	WWN	中期